

3月2日
前売開始



劇団唐組 岡山公演 4月26日・27日開催!!

紙芝居の絵の町で

岡山河畔芸術祭
旭川河畔・京橋河川敷

虚実の狭間から唐芝居が出現する

『紙芝居の絵の町で』は、唐十郎が2006年に書き下ろし、劇団唐組により初演した傑作戯曲となります。場末のAパートを舞台に追慕と怪異にあふれた人間模様が、唐芝居ならではの虚実を往還しながら繰り広げられます。

唐十郎作品とともに半世紀

唐十郎の演劇作品は1975年、初めて岡山城の烏城広場で上演されました。以来アートファームは、半世紀にわたり状況劇場と劇団唐組を招聘し、2022年から毎年、岡山河畔芸術祭の春公演として京橋河川敷に登場しています。



劇作に寄せて 唐十郎

condominium建設のために閉鎖されてしまった金沢の動物園、サニーランド。数ヶ月前までその動物園で働いていた飼育係達や、入場券のもぎり娘らが、かつての持ち場や動物との絆を断ち切れず、転職しきれずに、金沢から遠く離れたビジネスホテルに引き寄せられて来る。

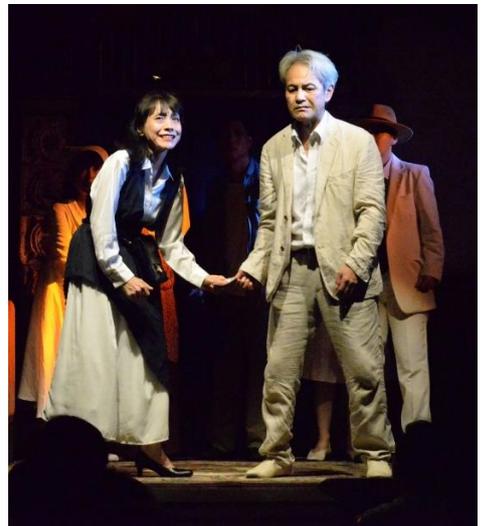
なかでも飼育係の副係長・灰牙は、「さすらいの飼育係」として独立すると宣言し、二トン半あるカバのドリちゃんを動物園から連れ出して、目下のところ、このホテルの二階の一室に飼っているという。——動物園が消えないでいるのは、それはあなたの頭の中にあるその灯が消えないからです——

ドリちゃんの水を全身に受けて、灰牙は忽然と姿を消す。

人々もそれぞれの毎日に戻るが、自らのあばら骨を檻として、そこにさすらいの動物園を持ち続けるだろう。

風よ、その彼らの肩を優しく撫でてくれ。

右文書院「唐十郎コレクション③戯曲篇」あとがきより
平成20年10月2日



唐組・第74回公演「動物園が消える日」

2024年10月5日 猿楽通り沿い特設紅テント



久保井 研

1962年生まれ福岡県出身。1989年劇団唐組入団。1989年～2024年まで全公演に出演。1990年『透明人間』で演出助手を務め、97年の再演では初めて演出を担当。2001年『水中花』主演。2005年『カーテン』主演。2006年『透明人間』主演。2007年第17回日本映画批評家大賞・ドキュメンタリー作品賞受賞作品『シアトリカル 唐十郎と劇団唐組の記録』に出演(監督 大島新)。2008年『ジャガーの眼 2008』主演。

2012年第49回公演『海星』公演期間中に座長 唐十郎が倒れ、座長代行として休演を回避、全公演を完了。2015年に一般社団法人劇団唐組 座長代行に就任。2012年第50回公演『虹屋敷』～2024年第74回公演『動物園が消える日』まで全て演出・出演、現在に至る。

外部演出では「少女仮面」(2010年)や渡辺えりー人芝居「乙女の祈り」(2010年)などがある。また劇団東京乾電池とのコラボ企画やサンプルなど他劇団への出演、「夜空はいつも最高密度の青色だ」(17年 監督 石井裕也)の映画出演など、演出家、俳優として幅広く活躍している。

西中島まちラボ



文化交流commons

岡山市街地を流れる一級河川・旭川の中州に位置する東中島町・西中島町は、江戸期には宿場・遊郭が軒を連ね、明治になると公設の花街となり、その歴史は昭和33年まで続きました。西中島町には明治初期に岡山初の芝居小屋・旭座が建設され、同町内に残っていた旧キリスト教会跡をリノベーションして、過疎高齢化が進む地域の交流拠点として2024年11月に開場したのが旭坐です。

一般社団法人 劇団唐組

唐十郎が主宰する劇団で、通称「紅テント」とも呼ばれる。唐十郎は1960年代初頭より状況劇場という劇団を主催し、仮設テントによる移動劇場を活動拠点として、全国の主要都市での公演を行ってきた。その活動は現代都市空間の中に、突如として非日常的な空間を創りだし、独自の演劇世界を出現させることにより社会に大きな影響、刺激を与えた。

1988年より劇団名を「唐組」と改め、新世代の座員を加え、状況劇場時代から培われてきた技術をさらに発展させ、テント設営、美術、音響、照明、衣裳など細部までを出演する座員達自らが受け持ち創造するスタイルで、年に2回、春と秋に一大興行を行っている。公演場所は状況劇場時代から半世紀を経て興行を継続してきた新宿花園神社をはじめ都内各所、また大阪をはじめ各都市での紅テント公演も精力的に行っている。

